

二〇二二年二月二日(参加者一七名)

梅探る智恵百度石撫でもして	うつぎ
春兆すクレーン海向き山を向き	"
佇めば梅が香通ふ忠魂碑	"
海見ゆる小高き丘や梅探る	"
ほぐれそむ「思いのまま」と名づく梅	明日香
大橋の主塔が尖る春霞	"
白梅の緑がかりてふふみけり	"
迷路めく梅林の径めぐりけり	"
お百度を踏む人の背に風光る	こすもす
水滴のごとく万蕾枝垂れ梅	"
探梅の丘に届きし沖汽笛	"
騒しきカラスや森の春動く	"
赤き灯はタワーの標識春霞	ひかり
喬木の鳥語降らせる園の春	"
梅目覚めよと槌音の届く丘	"
宝前に猪の足あと冴返る	菜々
紅白の梅神殿の右左	"
御手洗の竹桶に縷々と春の水	"

小流に佇みをれば梅匂ふ	百合
辿らばや馥郁の香の梅の道	"
をちこちに鳥語姦し春の山	えいいち
梅の丘沖の汽笛のとどきけり	"
雅なる名札うべなひ梅愛づる	きづな
循環の池の水とて春奏で	"
裏山に汽笛こだます梅日和	せいじ
囀を総身に浴びて園巡る	わかば
百度踏む媼に宮の梅固し	有香
すぐ下に電車の走る梅の丘	よし子
高貴なる名のつく梅のふふみけり	泰三
長閑なり水無川に猪のゐて	はく子
またたくは海の大橋春霞	満天
鈴生りの祈願の絵馬に春日燦	"
句帳手に舌頭千転春うらら	"

定例句会みの選

二〇二二年二月二日(参加者一七名)